

中国語の派生形容詞と日本語の様態副詞の対応

孫 琦

1 はじめに

中日形容詞対照研究の一環として、中国語の派生形容詞について考察する。中国語には、一音節形容詞Aから派生したABB型形容詞が数多く存在する。例えば、「绿油油（青くてつやつやしたさま）」「粘糊糊（ねばねばしているさま）」「圆溜溜（まんまるいさま）」「空荡荡（がらんとしているさま）」などである。本稿は、中国語のABB型派生形容詞の数と種類を調査し、形容詞Aと後置成分であるBBの関係及びBBの機能についてまとめ、さらに、日本語の様態副詞との対応関係から、中日両語の形容表現の特徴を明らかにしたい。中国語のABB型形容詞と日本語の対応は、例えば次の(1)のような対応が見られる。

- (1) 流苏慢腾腾摘下了发网,把头发一挽,搅乱了,夹铃叮铃当啷掉下地来。(张爱玲《倾城之恋》)

流蘇がのろのろとヘアネットをはずし、髪に指を入れてかき乱すと、ヘアピンがカタンカタンと床に落ちた。(池上訳『傾城の恋』)

「ヘアネットをはずす」様子について、中国語では一音節形容詞「慢（遅い）」から派生した「慢腾腾」というABB型形容詞が用いられ、動きの様態を修飾している。日本語訳では様態副詞である擬態語の「のろのろ」が使われている。

本稿では、中国語のABB型派生形容詞の修飾機能を日本語と対照させることによって、次のようなことを明らかにした。すなわち、連体修飾用法では、日本語の形容詞に比べ中国語の形容詞は文法的制限が厳しいために、派生形容詞が用いられていること。また、連用修飾用法では、特に述語の様態修飾に関しては、日本語と中国語のどちらから考察しても、中国語のABB

型派生形容詞と日本語の様態副詞との対応関係が見られ、中日形容表現の特徴であるといえることなどである。

2 中国語のABB型形容詞について

2.1 ABB型形容詞とは

中国語の形容詞は一般的に文法機能により、「性質形容詞」と「状態形容詞」に分かれる。ABB型形容詞は「状態形容詞」に属し、接尾辞（「词缀」）を伴う形容詞として分類されている（朱德熙1982、劉月華²⁰⁰¹）。周荐2002は、『現代漢語詞典』に収録されている三音節形容詞（ABB型とAAB型）全246語のうち、ABB型形容詞は209語で、全三音節形容詞の84.96%を占めるという結果を出している。ABB型形容詞の語構成の例として「白皑皑」と「赤裸裸」が挙げられている。「白皑皑」の場合は「皑」から「皑皑」が派生して、そして一音節形容詞「白」の後置成分となって、「白皑皑」という語形になった。一方の「赤裸裸」の場合は「赤裸」という一語から「裸」の部分が重ねて「赤裸裸」となったのである。

形容詞Aから派生したABB型形容詞の表現機能について、形容詞Aがそのまま用いられる場合は、物の属性などについての限定に重点があるのに対して、形容詞のABB型を用いた場合、物あるいは行為の修飾に重点があり、状態描写の機能を持つ、という違いがある。例えば、「冷たい風」を表す「凉风」と「凉飕飕的风」では、「凉风」は「風が冷たい」という風の属性について限定するのに対して、「凉飕飕的风」のほうは「ぞくぞくと寒気がするような冷たい風」のように、単なる風の属性を述べているのではなく、感覚的に事象を捉える特徴をもつのである。

2.2 考察対象

2.2.1 中国語ABB型形容詞の数及び種類

今回は辞書類を調査の対象として、『現代漢語重量形容詞用法例釈』、『現代漢語八百詞』（「形容詞生動形式表」）、『現代漢語詞典』、『形容詞用法詞典』の収録語より、550語（166項）¹のABB接辞型形容詞を採取した。なお、採取

の基準について、中国語の形容詞の文法機能を満たすもの、つまり：「謂語（述語）」「定语（連体修飾語）」「状語（連用修飾語）」「補語（連用修飾語）」になれるA B B型語を形容詞と見なす。したがって、以下のものを対象から除く。

「姑奶奶（おばさん）」「洋娃娃（人形）」は名詞である。「打喳喳（ひそひそ話しをする）」「打哈哈（冗談を言う）」は動詞である。「噗噜噜（ばたばた）」「咕碌碌（ころころ）」は擬声語である。

2. 2. 2 [A + B B]型について

今回の調査では、採取したA B B型形容詞のうち、語構成から見てA + B B型（「白皑皑」型）の形容詞はもっとも多い数を占めている（全体の83.3%で458語）。この[A + B B]型形容詞を語彙の面から少し詳しく見ていく。

I Aの品詞性

形容詞（360語）： 白皑皑 矮墩墩 辣乎乎 亮晶晶 暖融融 ……

名詞（47語）： 火辣辣 汗淋淋 毛茸茸 油光光 泪汪汪 ……

動詞（51語）： 笑眯眯 气冲冲 醉醺醺 闹哄哄 颤巍巍 ……

[A + B B]型形容詞の中、Aが一音節形容詞の場合がもっとも一般的である。例えば、「白皑皑」（白-白い）[雪のような白いさま]、「辣乎乎」（辣-辛い）[ひりひりするほど辛いさま]、「暖融融」（暖-暖かい）[陽射しがぼかぼかと暖かいさま]。そのほかにAが名詞の場合もある。例えば「火辣辣」（火-火）[ひりひり痛いさま]、「汗淋淋」（汗-汗）[汗ばむさま]。そしてAが動詞の場合、例えば「笑眯眯」（笑-笑う）[にこにこ笑うさま]、「醉醺醺」（醉-酔う）[酒に酔ったさま]もある。いずれも[A + B B]全体を一語としてみた場合、形容詞の文法機能を満たしているため、本稿では形容詞と認める。

II B Bについて

まず、B Bの造語力の面からみて、一音節形容詞Aの後置成分B Bのうち、「乎乎」のように多数のAの後ろにつけられるものがある。「乎乎」は実詞的意味（語彙の意味）はなく、もっぱら接辞として使われ、「充滿している」様子を描写する状態形容詞をつくったり、語幹を強調したりするといった働

きをする。「白、潮、稠、臭、肥、粉、黒、紅、黄、急、辣、烂、乱、毛、脏、粘、胖、气、热、软、臊、傻、湿、咸、血、油、圆、晕、面」の29種類の一音節語の後ろにつけてA B B型形容詞を構成することができる。「乎乎」のような造語力の高い形容詞接尾辞として、「溜溜」「巴巴」「墩墩」「光光」などがある。これらのB Bも多数の一音節形容詞の後ろにつけてA B B型形容詞を構成できる。一方、特定のAの後ろにのみ付けられるB Bもある。言い換えれば、ある語専用の接尾辞となるものである。例えば、「醺醺」は「酔」にのみついて「酔醺醺」[酒に酔ったさま]を構成するが、それ以外の語についてA B B型形容詞を構成することはできない。このほかに、「歪歪一病歪歪」[病気でふらふらしているさま]、「惺惺一假惺惺」[いかにもわざとらしいさま]、「梆梆一硬梆梆」[かちかちに硬いさま]、「喷喷一香喷喷」[ぶんぶんとしてよいおいがするさま]、「答答一羞答答」[恥ずかしいさま]などがある。

次に、漢字表記の面からみて、同じB Bでも漢字表記が異なることがある。例えば、「黑乎乎」[なんとなく黒くてぼんやりしている]の場合の表記は「黑呼呼」「黑糊糊」「黑忽忽」になる場合がある。この場合の後置成分B Bの漢字表記が異なっているが、発音は「hūhū」と共通していて、意味も使われ方もほとんど同じである。「湿漉漉」と「湿碌碌」[物がしめったさま]、「凉飕飕」「凉嗖嗖」[風が冷たいさま]、「喜滋滋」「喜孜孜」[うれしくてうきうきしているさま]のいずれもB Bの発音は同じで、表記のみが異なる。

3 連体修飾用法からみた中国語のA B B型形容詞と日本語の対応

中国語のA B B型形容詞と日本語との対応を中心に、用法の面から検討する。考察の際に、連体修飾用法と連用修飾用法のそれぞれから、小説から採取した事例及びその翻訳を中心に対応関係をみるため、純粋な文法機能の対応、つまり常に一対一の対応をしているというよりは、それぞれの部分の訳語としての対応関係となる。なお、使用する用例の訳は出版されている小説の翻訳本から引用している。出典は略語で示した。出典の示されていない訳は著者の作例である。

3.1 一音節形容詞Aとその派生形A B Bの用法

日本語の属性形容詞及びその派生形が、連体修飾用法において、中国語訳ではA B B型形容詞が対応している場合について考察する。

(2) すると佐太郎はいきなりわらい出してふところの鉛筆をかよの小さな赤い手に持たせました。(風の)

(2a) 佐太郎一听不由得笑出声来，取出怀中的铅笔放回佳代红通通的小手上。(风又)

(2b) 佐太郎一听不由得笑出声来，取出怀中的铅笔放回佳代红红的的小手上。

(2c) *佐太郎一听不由得笑出声来，取出怀中的铅笔放回佳代红的的小手上。

一音節形容詞であるA「红 (赤い)」は「性質形容詞」であり、単独では名詞を修飾することは難しい。日本語の「赤い手」に対応する表現は「红手」「红的手」「红红的手」「红通通的手」²の四通りを想定できるが、実際の表現上では「红手」「红的手」という言い方は成立しない。その理由はについて、次のように考えられる。「红手」のように、性質形容詞「A」が直接連体修飾語になるには厳しい制限がある。例えば「白纸 (白い紙)」は言えるが、「*白手 (白い手)」は言えない。「贵东西 (高い品物)」は言えるが、「*贵书包 (高いカバン)」は言えない。被修飾語の名詞によって、一音節形容詞が直接修飾できるか否かは、今までの学説では、それは習慣的であるとされている。それに対して、状態形容詞は「的」を伴えば自由に名詞を修飾することができる。「红的手」のように、性質形容詞「A的」による連体修飾の場合、対比を表す文脈の中にのみ成立する。(例：红的铅笔, 黑的圆珠笔各种各样的笔都有。／我拿重的包, 你拿轻的包) したがって、(2)の場合の「红的手」は特に対比という文脈の中で使われているわけではないため、ここでは不適切な表現となる。

「赤い花」に対応する表現は「红花」「红的花」「红红的花」「红艳艳的花」のいずれも成立する。「红花」は一語である認識が強い。「红手」が言えないのに、「红花」が言えるのは語の意味的・文法的根拠があるのではなく、長い言語活動の歴史の中でともに用いられることが多いことから固定されてきたのであって、習慣的なものであるとされている³。「红的花」は「白的花」(赤

以外の花)との対立の中で成立する。「红红的花」「红艳艳的花」はいずれも花の色を描写する連体修飾の言い方であるが、表現上には差がある。中国語の一音節形容詞が重ねて用いられる場合と後置成分を伴って用いられる場合、描写の働きがより強まる。以上のことから、中国語の一音節形容詞「A」「A的」は排他的(限定的)で、「AA的」「ABB的」は描写的であるといえよう。従って、(2)ではABB型形容詞「红通通」が用いられるのである。

一方、日本語の形容詞においては、「赤い手」と「手が赤い」、「赤い花」と「花が赤い」のように、圧倒的多くの形容詞は叙述用法と連体用法が対応している(「多い」「少ない」「遠い」「近い」は例外)。寺村秀夫1991では、「形状・特徴を描く形容詞は、連体修飾的に使われたときは、被修飾語である名詞の、他の同種のものとは比べての特徴を述べるのに(つまり範囲限定の品定め)に使われるのが普通である。文の述語としては、そのような使い方もあるが、たんにそのときの話し手の対象の、状況についての印象を表わす言い方もある。」(p. 264)と述べている。

3.2 重ね型AAと接辞型ABB

次の(3)では、日本語の「白い道」に対して、中国語では(3a)の「白茫茫的 大道」というように、ABB型形容詞が用いられて、自然な描写であるように感じるが、(3c)の「白白的大道」という言い方はやや不自然さを感じる。それはAA型形容詞とABB型形容詞の表現上の違いに起因すると考えられる。つまり、一音節形容詞「白」の重ね型である「白白」は単なる「白さ」についての強調であるのに対して、接辞である「茫茫」を付けて、「白茫茫」となると、「白い」という意味にさらに「ぼんやり広々とした感じ」といったような描写的ニュアンスが附加される(そのため「道」も「大道」に訳されている)。日本語原文の「白い」は単なる「道の色」を修飾しているのではなく、「光でなんとなくぼんやり広々とした道の様子」といった意味が小説の文脈から読み取れるので、中国語訳ではこの「白い道」を「白茫茫的大道」と訳すのは適切であると考えられる。

(3) 二人がその白い道を、肩をならべて行きますと、二人の影は、ちょうど四方に窓のある室の中の、二本の柱の影のように、また二つの車輪の輻のように幾本も幾本も四方へ出るのでした。(銀河)

(3a) 两人并肩顺着那条白茫茫的大道向前走。他们身影恰似屋子里的两根柱子，而这个屋子四面是玻璃；影子又如车轮的辐条，无数条辐条射向四面八方。(银河)

(3b)*两人并肩顺着那条白的大道向前走。

(3c)?两人并肩顺着那条白白的大道向前走。

3.3 ABB型形容詞の表現上の特徴

日本語の「黒い」「まっ黒」に対応する中国語の派生形容詞は「黒黒」以外に、以下のような多種多様なABB型形容詞が存在する。(4)(5)のように、修飾の対象によって使い分けている。

黒 糝糝 黢黢 压压 墩墩 油油 洞洞 乎乎 茫茫 漆漆 苍苍 荏荏 植植
沉沉 砣砣 黝黝 幢幢 丛丛 簇簇 糝糝 糊糊 呼呼 忽忽 亮亮 灵灵
溜溜 茫茫 蒙蒙 森森 腾腾 乌乌 魁魁 鸦鸦 阴阴 黝黝 郁郁

(4) すると空中にざあっと雨のような音がして何かまっくらなものがいくかたまりもいくかたまりも鉄砲丸のように川の向うの方へ飛んで行くのでした。(銀河)
于是空中传来沙沙的雨声。一种黑糊糊的东西，如同枪林弹雨，相继随声飞向河对面。(银河)

(5) その牛乳屋の黒い門に入り、牛の匂のするうすくらい台所の前に立って、(銀河)
从牛奶铺那黑洞洞的大门，来到昏暗的厨房，一股牛棚的气味扑鼻而来。(银河)

次に、中国語から日本語に訳される場合はどうだろうか。

(6) 我全身只剩下头颅，在一片黑茫茫、莽苍苍的大森林里游荡。(緑)

みよ、ただ首だけが残り、暗くうっそうとした大森林をさまよっている。(緑)

(7) 在灰糊糊的天空，灰糊糊的田野，灰糊糊的村庄上，到处飞着洁白、闪亮的雪花。(緑)
灰色の空、灰色の畑、灰色の村に、真っ白なきらめく雪が飛び舞っていた。(緑)

中国語のA B B型形容詞による連体修飾の表現が、日本語では「暗い」のような形容詞、「うっそうとした」のような擬態語、そして「灰色」のような名詞による連体修飾表現が対応している。日本語の色彩形容詞の場合、「灰色」「緑」などは形容詞の形が存在せず、名詞や形容動詞の語幹しかない。このような対応は語彙上の制限によるものである。

3.4 まとめ

中国語の一拍節形容詞Aは名詞を修飾する際、厳しい文法的制限があるため、自由に用いられない。その代わりにA B B型形容詞が状態描写に用いられる。連体修飾で用いられる中国語のA B B型形容詞に対応する日本語訳では、形容詞においては特に文法的制限がなく、形容詞以外にも様態副詞や名詞などによる修飾が見られる。

また、中国語の形容詞重ね型A Aの表現機能は主に程度の強調であるのに対し、A B B型形容詞は修飾する対象によって、付加的意味特徴によってさまざまな表現効果を生み出す。日本語の形容詞に対応する中国語のA B B型形容詞は多種多様で、被修飾語の名詞によって使い分けている。

4. 連用修飾用法からみた中国語のA B B型形容詞と日本語の対応

日本語文に対する中国語訳のうち、A B B型形容詞が用いられる用例を中心に考察する。形容詞の連用修飾用法をその機能によって、主体・対象の状態修飾と述語の様態修飾に分けて考察する。

4.1 主体・対象の状態修飾

(8) 主人は幼少の時その家の倉の中に、薄暗く飾り付けられた金箔厚き厨子があって、その厨子の中にはいつでも真鍮の燈明皿がぶら下って、(我輩)

小时候他家仓房里供着一个黑乎乎的贴金大佛龕，佛龕里总是吊着一个黄铜的灯碗，(我是)

(9) 河原のいちばん下流の方へ洲のようになって出たところに人の集りがくつきりまっ黒に立っていました。(銀河)

下游河滩有一块沙洲，黑压压的人群轮廓分明可见。(银河)

(10) スコップの柄は、手垢で黒く光った、太い瘤だらけの雑木だった。(砂の)

铁铲的杂木手柄上，闪着黑乎乎油泥的光，还结着一个粗大的树瘤。(砂女)

日本語の形容詞の連用形「薄暗く」「まっ黒に」は、「黒乎乎」（黒い、まっ黒、薄暗い）「黒圧圧」（人や物がたくさん集まって黒山のような）が用いられている。日本語では形容詞の連用修飾句が中国語訳では連体修飾句になるという現象については、すでに孫琦2000で論じられているが⁴、これは中国語訳ではA B B型形容詞が使われるから特別のこととは言えない。

次に、中国語から日本語に訳される場合について見てみよう。

(11) 头发梳平了，光溜溜地在脑后窝了个纂，海昌蓝的褂子很可体。(小)

髪をきれいに梳いて、うしろのまげはすべすべで、藍染めの上着がよく似合っていた。(小)

(12) 我顾不得我自己，湿漉漉地站在没过膝盖的冰水里。(緑)

びしょぬれで膝までつかる氷水の中に立ち、自分のことなどそっちのけで。(緑)

例(11)(12)の中国語原文では、「すべすべに結って」「びしょぬれに立って」のように、形の上ではA B B型形容詞は述語にかかっているが、意味的には「結ったまげはすべすべで」「立っている私はびしょぬれで」のように、主体や対象の状態について状態説明している。そのため、日本語訳ではいずれも状態説明の表現が用いられている。

4.2 述語の様態修飾

(13) 煮え立つ水銀のような太陽が、砂の壁のふちにかかって、穴の底をじりじりと焦がしはじめていた。(砂の)

太阳光象煮沸了的水银，沿着砂壁的边缘照射下来，火辣辣地烧灼着洞底的地面。(砂女)

(14) 汽車が小さな小屋の前を通ってその前にしょんぼりひとりの子供が立ってこっちを見ているときなどは思わずほうと叫びました。(銀河)

当火车开过一间小茅屋时，焦班尼发现一个小孩孤零零地站在那儿，朝这边张望。他不禁惊叫一声。(銀河)

(15) ただたくさんのくるみの木が葉をさんさんと光らしてその霧の中に立ち黄金の円光をもった電気栗鼠が可愛い顔をその中からちらちらのぞいているだけでした。

(銀河)

唯有许多核桃树的叶片明灿灿地閃现在雾中。带有金色光环的电松鼠，时隐时现地露出可爱的小脸向外张望。(銀河)

中国語訳ではA B B型形容詞が用いられる用例では、「くるくる」「のろのろ」「じりじり」「しょんぼり」「さんさん」のような様態副詞である擬態語による連用修飾のものが多く見られる。これは中国語の形容詞後置成分「B B」の表す意味とかかわっている。「B B」は音声象徴的な面と語彙的意味の両方を備え、事象を感覚的に捉える働きをしている。これによって構成されるA B B型形容詞は特に動きなどについて様態を描写する機能を持ち、日本語の擬態語と対応できるからである。

次に、中国語から日本語に訳される場合について見てみよう。

(16) 一只狗在喉咙里吼着跑过来, 几只鸡悠闲地散着步, 啄着土坷垃。太阳明晃晃地照着。

(小)

犬が一匹低くうなりながら駆け寄り、鳥が数羽のんびり歩きながら、土くれをついばんでいた。太陽がぎらぎらと照りつけている。(小)

(17) 我装作不乐意地放下书本, 慢吞吞地爬起来, 跟在她的后面。(緑)

私はいかにも不愉快そうに本を置き、ノロノロと体を起こし、彼女のあとについていった。(緑)

日本語から見ても中国語から見ても、様態修飾においては、中国語のA B B型形容詞が日本語の様態副詞である擬態語との対応が見られ、特徴的であるといえよう。

4.3 まとめ

主体・対象の状態修飾の場合、中国語では形容詞による連用修飾の用例はあまり見られない。これはA B B型形容詞にも共通していえる。したがって、

日本語の連用修飾表現が中国語に訳される際、連体修飾に変換されることが多い。これはA B B型形容詞は様態描写が主な表現機能であることに起因すると考えられる。単なる属性や程度については用いられにくい。

一方、述語の様態修飾に関しては、日本語と中国語のどちらから見ても、中国語のA B B型形容詞と日本語の様態副詞（擬態語）との対応関係がみられる。特徴的であるといえよう。これは両者の表現効果に共通するところがあるからであろう。

5 結論

本稿は、中国語のA B B型派生形容詞を対象に、種類や語構成の面から考察を行った。さらに日本語との対照を通して、修飾用法の特徴が明らかになった。中国語の形容詞は一般的に文法的制限が日本語に比べ厳しいために、その派生形が発達したと考えられる。また、豊富な様態副詞をもつ日本語と対照的に、中国語では派生形容詞が様態修飾の役割を果たしている。今後は、中国語形容詞のその他の派生形（重ね型）について、さらに検討していこうと考えている。

注

- 1 同じ形容詞Aが含まれる語は1項として数える。例えば「红通通」「红艳艳」「红扑扑」は1項で3語である。
- 2 “的”は「结构助词」（「構造助詞」）と呼ばれ、「定语」（連体修飾語）を構成する。日本語の連体助詞“の”に相当するが、名詞以外の形容詞や動詞の連体修飾にも使われる。“地”は「状語」（連用修飾語），“得”は「補語」（連用修飾語）をそれぞれ構成する「構造助詞」である。
- 3 音節も重要な要因であると考えられている。一音節の語は現代中国語のなかでは安定性が弱く、二音節化か三音節化することによってより安定した語形となる。
- 4（例）新聞に小さく記事が載っている。

只在报上登了一个小方块。（新聞に小さい記事が載っている）

このように、形容詞が動詞にかかっている、その意味が主体や対象の状態について形容する場合、中国語の状語による連用修飾の形では表現しにくい。

用例出典

[日本語]

- (銀河)『銀河鉄道の夜』宮沢賢治『宮沢賢治全童話集CD-ROM』1997
《银河铁道之夜》宮澤賢治著 周龍梅譯 譯林出版社1994
- (風の)『風の又三郎』宮沢賢治『宮沢賢治全童話集CD-ROM』1997
《风又三郎》宮澤賢治著 <http://www.shuhu.net/novels/children.gzxzhzpj/gzxzhi11.html>
- (砂の)『砂の女』安部公房『新潮文庫の100冊CD-ROM』新潮社 1995
《阿部公房文集 砂女》[日] 阿部公房著 楊炳辰 鄭民欽等譯 珠海出版社1997
- (我輩)『我輩は猫である』夏目漱石『新潮文庫明治の文豪CD-ROM』新潮社1997
《我是猫》原著 夏目漱石／中文翻譯 于雷 吉林大學出版社 2000

[中国語]

- (緑)《绿化树》 张贤亮 《张贤亮小说自选集》漓江出版社 1995
『綠化樹』 張賢亮著 野沢俊敬訳 響文社 1989
- (傾)《倾城之恋》 张爱玲 《张爱玲小说集》安徽文艺出版社 1995
『傾城の恋』 張愛玲著 池上貞子訳 平凡社 1995
- (小)《小鲍庄》 王安忆 《中国作家》1985年第2期
『小鮑莊』 王安憶原作 佐伯慶子訳 徳間書店 1989

参考文献

- 朱德熙(1982)『語法講義』 商務印書館
(日本語版)『文法講義』 杉村博文／木村英樹訳 白帝社 1995
- 周荐(2002)「現代漢語量字詞研究」南開語言學刊創刊号
- 劉月華⁶⁶(2001)『實用現代漢語語法(增訂本)』商務印書館
- 呂叔湘(1981)「形容詞生動形式表」『現代漢語八百詞』商務出版社
(日本語版)「形容詞強調形一覽」『中國語用例辭典』菱沼透訳／牛島徳次監
訳 東方書店 1992

寺村秀夫(1991)『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』くろしお出版

孫琦(2000)「形容詞の中日対照—日本語から中国語に翻訳される際の考察—」『ことば』21
号 現代日本語研究会

『現代漢語重量形容詞用法例釈』王国璋等編著 商務印書館 1996

『形容詞用法詞典』鄭懷徳／孟慶海編 湖南出版社 1991

『中日辞典』北京商務印書館／小学館共同編集 小学館 1992

『現代漢語詞典』(修訂本) 商務印書館 1996

(そん き)